

(1) 科目の紹介

科目名	PBL テュートリアル	開講年度：平成24年度 開講学期：前期 曜日校時：月5 単位数：8.5の一部	専門 演習 必修
教員名（所属）	松本恵、安武亨、桑原宏永、分部哲秋、小出優司、柴田英貴（医学科）		
対象学部・年次	医学科、5年次	受講人数：約100名	
授業のねらい	各種症候・疾患に関する病態生理を理解するとともに、知識を整理し、診断治療の考え方を学ぶ。また、患者等に対する姿勢・態度をグループ討議を通じて学び、多種多様な考え方があることを学ぶ。		
授業の方法	PBL テュートリアル授業の一部（計2日間）をTBL形式にて行う。1テーマを180分で行う。		
おもなアクティブ ラーニング手法	スクラッチカード機能を備えたレスポンスアナライザー等を活用したTBL (Team Based Learning)。 TBL：大教室で学生を少人数グループに分けて授業を行うもの。予習（個人学習）、個人テスト、グループテスト、アピールタイム、教員によるフィードバック、応用問題などからなる。		

(2) 学修評価について

到達目標	<p>①与えられた知識の記憶にとどまらず、必要な知識を自ら獲得する方法と習慣を身に付ける。</p> <p>②臨床に即した問題解決が行えるよう、病態の基礎医学的理解から診断・治療までを症例に基づいて一貫して学ぶことにより、臨床実習に必要な基本的知識と考え方を習得する。</p> <p>③グループ学習を通じてコミュニケーション能力を身に付け、チーム医療の基本を学ぶ。</p>
成績評価の方法	<p>①出席の状況、討論への参加状況をもとに評価する。</p> <p>②個人テスト、グループテスト、アピール点、ピア評価をもとに評価する。</p>

(3) 授業進行の概要と詳細

授業進行の概要	<p>Web Class 上に資料（教員が作成したもの）を up し、予習させた。移動式の机を備えた教室で、約 100 名が 7-8 人のグループを形成する。まず、個人テストをクリックーを利用して行う。次いで、スクラッチカード機能を備えたクリックーでグループテストを行う。スクラッチカード機能により学生は回答が正解か否か即座に知ることができ、誤りの場合は、更なるグループ内討議が行われることになる。グループテスト後に教員は解説を加える。学生は訴えたい事項があれば文書にてアピールする。さらには応用問題に進み、解答がやや困難な問題にグループで取り組む、それぞれに解説を加え、最後にピア評価を提出させる。</p>		
回	学習内容	授業方法	予復習課題
1	乳癌（180分）	TBL	予) 乳癌 (PPT58 枚) 復)
2	意識障害（180分）	TBL	予) 意識障害 (PPT31 枚) 復)
3	ウイルス肝炎（180分）	TBL	予) ウイルス肝炎 (PPT18 枚) 復)
4	虚血性心疾患（180分）	TBL	予) 虚血性心疾患 (PPT49 枚) 復)

(4) 授業の成果

成績の分布 (円グラフなど)	現在、集計中。
学生の授業評価 (レーダーチャートなど)	クリックーを導入しての変化：かなり～やや楽しくなった 71%。かなり～やや積極的に参加できた 71%。スクラッチカードシステムを利用したグループテスト：とても～やや楽しく参加できた 82%。
全体の振り返り	個人テストをクリックーで行うことにより回答状況を教員が即時に知ることができ、授業へ反映できた。TBL により授業の場に活気を生み出すことができた。

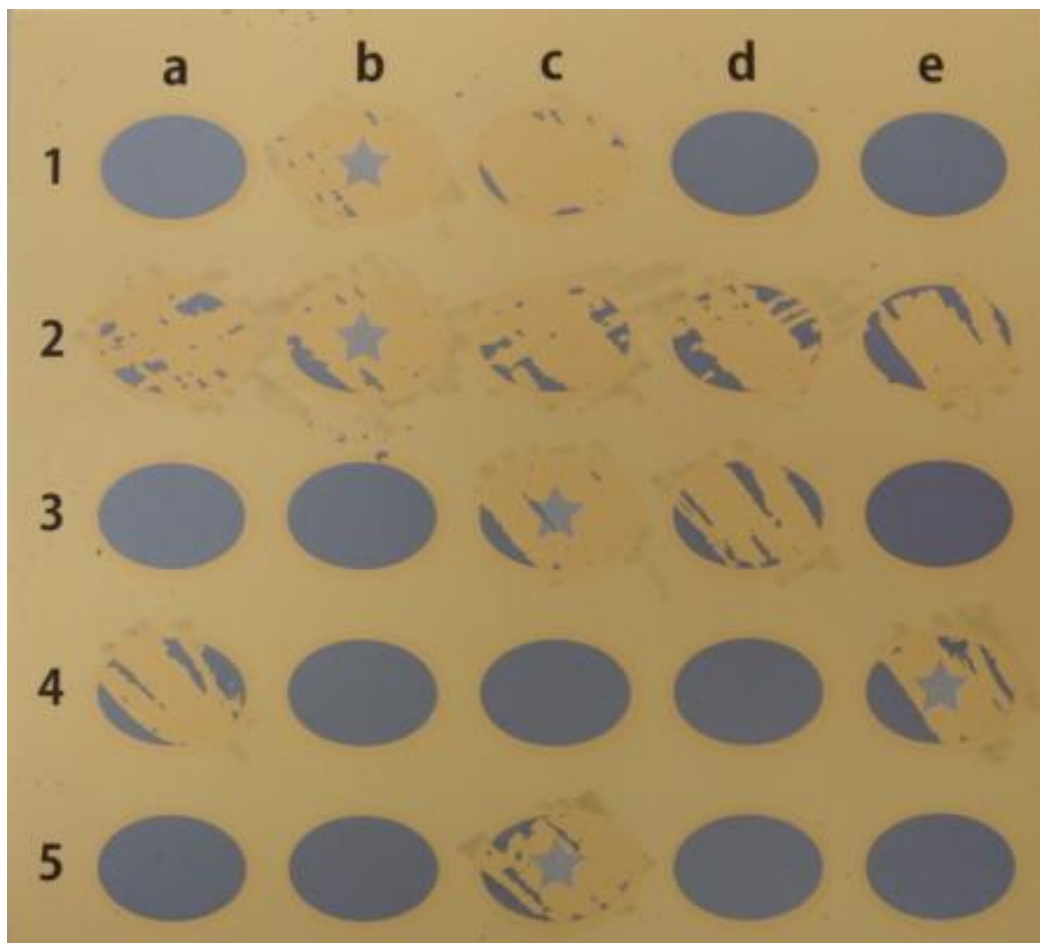
今後の改善点	シナリオを作成する教員の負担軽減。 グループ内の全学生を活発に討議に参加させるための問題・環境作り。 学生に“慣れ”が生じた場合の対策が課題。
--------	---

(5) アクティブ・ラーニングの充実にに向けた提案

ポイント提案	スクラッチカード機能を備えたクリッカーが無くとも、通常のクリッカーと安価なスクラッチカードで TBL は行えるので、グループを形成できるフラットな教室が増えれば TBL は普及可能と思います。
参考になる資料	TBLー医療人を育てるチーム基盤型学習 瀬尾宏美監修 株式会社シナジー

(補1)

スクラッチカード



(補2)

スクラッチカード機能付きクリッカー

